

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-030695

(43)Date of publication of application : 02.02.1996

(51)Int.Cl. G06F 19/00

(21)Application number : 06-160916

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 13.07.1994

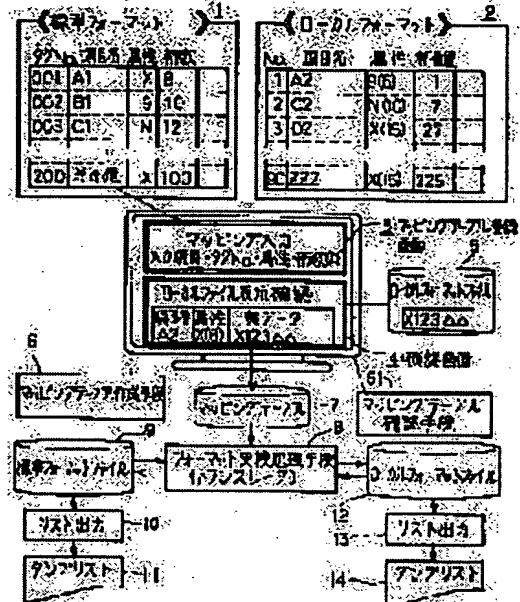
(72)Inventor : YAMAGUCHI TOSHIKAZU

(54) FORMAT CONVERSION SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To easily generate and verify a mapping table for format conversion in a short time by displaying items and attributes according to the format of a conversion source and further actual data at need, performing correction, addition, deletion, and resequencing and also displaying and verifying the actual data of a conversion destination, and thus generating the mapping table.

CONSTITUTION: This system is equipped with the mapping table 7 wherein information for conversion from the format of the conversion source to the format of the conversion destination is registered, a mapping table generating means 6 which registers format information on the conversion source consisting of items and attributes on a screen and format information on the conversion destination, and a mapping table confirming means 61 which displays the items and attributes and the actual data of the conversion destination on the screen when the conversion to the format of the conversion destination is performed on the basis of the information registered in the mapping table 7 and the actual data of the conversion destination.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-30695

(43) 公開日 平成8年(1996)2月2日

(51) Int.Cl.⁹

G 0 6 F 19/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

9069-5L

G 0 6 F 15/ 22

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平6-160916

(22) 出願日 平成6年(1994)7月13日

(71) 出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

(72) 発明者 山口 利員

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

(74) 代理人 弁理士 岡田 守弘

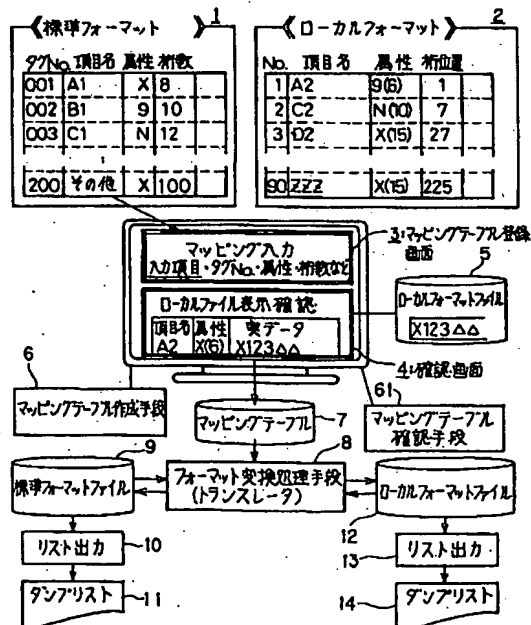
(54) 【発明の名称】 フォーマット変換システム

(57) 【要約】

【目的】 本発明は、フォーマット変換システムに関し、変換元のフォーマットに従って項目や属性および必要に応じて実データを表示し、これを修正、追加、削除、順序変更して併せて変換先の実データも表示し検証を行ってマッピングテーブルを作成し、フォーマット変換用のマッピングテーブルの作成/検証を短時間かつ簡単にを行うことを目的とする。

【構成】 変換元のフォーマットから変換先のフォーマットに変換する情報を登録するマッピングテーブル7と、画面上で項目、属性からなる変換元のフォーマット情報および変換先のフォーマット情報をマッピングテーブル7に登録するマッピングテーブル作成手段6と、マッピングテーブル7に登録された情報および変換先の実データをもとに変換先のフォーマットに変換したときの項目、属性および変換先の実データを画面に表示するマッピングテーブル確認手段61とを備えるように構成する。

本発明の1実施例構成図



【特許請求の範囲】

【請求項1】変換元のフォーマットから変換先のフォーマットに変換する情報を登録するマッピングテーブル(7)と、

画面上で項目、属性からなる変換元のフォーマット情報および変換先のフォーマット情報を上記マッピングテーブル(7)に登録するマッピングテーブル作成手段

(6)と、

マッピングテーブル(7)に登録された情報および変換先の実データをもとに変換先のフォーマットに変換したときの項目、属性および変換先の実データを画面に表示するマッピングテーブル確認手段(61)とを備えたことを特徴とするフォーマット変換システム。

【請求項2】上記登録したマッピングテーブル(7)を参照してあるフォーマットから他のフォーマットに項目、属性、実データの変換を行うことを特徴とする請求項1に記載のフォーマット変換システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、フォーマットを異なる他のフォーマットに変換するフォーマット変換システムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、標準フォーマットのデータをローカルフォーマットのデータに変換あるいは逆に変換する場合、図10に示すように、画面上で変換前フォーマットを入力して表示した後、変換後フォーマットに従い、項目単位に変更(例えば桁数や一部属性の変更)、削除、順序変更などを対話的に入力して修正しマッピングテーブルを作成する。この作成したマッピングテーブルをもとに、フォーマット変換処理手段がローカルフォーマットファイルから取り出したデータを、標準フォーマットに変換して標準フォーマットファイルに格納し、リスト出力したり、ダンプリストを出力する。同様に、作成したマッピングテーブルをもとに、フォーマット変換処理手段が標準フォーマットファイルから取り出したデータを、ローカルフォーマットに変換してローカルフォーマットファイルに格納し、リスト出力したり、ダンプリストを出力する。そして、両者を目視チェックし、その整合性を確認する。この目視の段階で不一致が見つかった場合には、マッピングテーブルの該当する項目の変更、削除、順序変更などを手修正する。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述したように、画面上で対話形式で標準フォーマットからローカルフォーマット、およびローカルフォーマットから標準フォーマットに変換するためのマッピングテーブルを作成した後、フォーマット変換手段がこのマッピングテーブルを参照して標準フォーマットからローカルフォーマットあるいはローカルフォーマットから標準フォーマットにデータ

をそれぞれ相互に変換した後、両者の変換後のデータのリストを目視してチェックしていたため、間違いが見つかったときにマッピングテーブルを手修正し、再度、変換を行うことを繰り返して確認する必要がある、マッピングテーブルの作成・修正に長時間および多くの手間が必要になってしまうという問題があった。

【0004】本発明は、これらの問題を解決するため、変換元のフォーマットに従って項目や属性および必要に応じて実データを表示し、これを変換先のフォーマットの項目や属性などに修正、追加、削除、順序変更して併せて変換先の実データも表示し検証を行って修正などを同時に行いマッピングテーブルを作成し、マッピングテーブル作成時に併せて変換後の検証を行える構成を採用し、フォーマット変換用のマッピングテーブルの作成/検証を短時間かつ簡単に行うことを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】図1を参照して課題を解決するための手段を説明する。図1において、マッピングテーブル登録画面3は、変換元のフォーマットの項目、属性および必要に応じて実データを表示する画面である。

【0006】確認画面4は、マッピングテーブル7の情報および変換先の実データをもとに項目、属性および実データを表示する確認用の画面である。マッピングテーブル作成手段6は、マッピングテーブル登録画面3上で変換先のフォーマットと異なる部分の修正、追加、削除、順序変更に対応して、当該マッピングテーブル登録画面3上の項目、属性、実データ表示を修正、追加、削除、順序変更したり、変換元のフォーマットを変換先のフォーマットに変換する情報をマッピングテーブル7に登録したりするものである。

【0007】マッピングテーブル確認手段61は、マッピングテーブル7の情報に従って変換先の項目、属性および変換先の実データを併せて確認画面4上に表示するものである。

【0008】マッピングテーブル7は、変換元のフォーマットから変換先のフォーマットに変換する情報を登録するものである。フォーマット変換処理手段8は、マッピングテーブル7を参照してフォーマットを変換するものである。

【0009】

【作用】本発明は、図1に示すように、マッピングテーブル作成手段6がマッピングテーブル登録画面3上で変換先のフォーマットと異なる部分の修正、追加、削除、順序変更に対応して、マッピングテーブル登録画面3上の項目、属性、実データの表示を修正、追加、削除、順序変更すると共に変換元のフォーマットを変換先のフォーマットに変換する情報をマッピングテーブル7に登録し、マッピング確認手段61がこのマッピングテーブル7に登録された情報および変換先の実データをもとに変

3

換先のフォーマットに変換したときの項目、属性および変換先の実データを確認画面4に表示する。そして、確認画面4上の表示のうち修正などが必要と判明したときには、マッピングテーブル作成手段6がマッピングテーブル登録画面3上で修正などされたことに対応してマッピングテーブル7を修正するようにしている。

【0010】ここで、マッピングテーブル登録画面3および確認画面4を1つの画面にまとめて表示し、マッピングテーブル7への登録および検証を同時に行うようにしている。

【0011】また、フォーマット変換処理手段8がマッピングテーブル7を参照して、あるフォーマットから他のフォーマットに項目、属性、実データの変換を行うようにしてもよい。

【0012】従って、変換元のフォーマットに従って項目や属性および必要に応じて実データをマッピングテーブル登録画面3上に表示し、これを変換先のフォーマットの項目や属性に修正、追加、削除、順序変更すると共にマッピングテーブル7に登録された情報および変換先の実データをもとに変換先のフォーマットで表示し検証を行くことにより、マッピングテーブル7の作成時（登録時）に併せて変換後のフォーマットの検証ができ、フォーマット変換用のマッピングテーブル7の作成／検証を短時間かつ簡単に行うことが可能となった。

【0013】

【実施例】次に、図1から図9を用いて本発明の実施例の構成および動作を順次詳細に説明する。

【0014】図1は、本発明の1実施例構成図を示す。図1において、標準フォーマット1は、フォーマットの1つの標準（標準EDI）として定められた形式である。ここでは、図示のように、タグNo、項目名、属性、桁数などを定めたものであって、例えば

タグNo	項目名	属性	桁数
001	A1	X	8

で表されるフォーマットは、タグNoが“001”の項目名は“A1”（具体的には例えば“商品コード”）であって、その属性が“X”（英数字）で桁数が“8”

（8桁）（具体的には例えば商品コードの実データが英数字で8桁）であることを表す。

【0015】ローカルフォーマット2は、フォーマットの他の1つであって、ユーザが個別に定めた形式である。ここでは、図示のように、No、項目名、属性、桁位置などを定めたものであって、例えば

No	項目名	属性	桁位置
1	A2	9(6)	1

で表されるフォーマットは、Noが“1”の項目名は“A2”（具体的には例えば“商品コード”）であって、その属性が“9(6)”（数字で桁数が6桁）で桁位置が“1”（具体的には例えば商品コードの実データが数字で6桁であり、桁位置1から位置づける）である

4

ことを表す。

【0016】マッピングテーブル登録画面3は、ディスプレイ上に表示した画面であって、ここでは、標準フォーマット1の項目、属性および実データを表示したものである（図4参照）。このマッピングテーブル登録画面3上で変換先のローカルフォーマットと異なる部分を変更、追加、削除、順序変更などを行う。

【0017】確認画面4は、マッピングテーブル7に登録された情報に従って、項目、属性およびローカルフォーマットの実データを併せて表示する確認用の画面である（図7参照）。

【0018】ローカルフォーマットファイル5は、ローカルフォーマット2の内容（実データ）を格納したものである。マッピングテーブル作成手段6は、標準フォーマット1のレコードをマッピングテーブル登録画面3に表示し、当該マッピングテーブル登録画面3上で利用者が変換しようとするローカルフォーマット2と異なる項目名や属性などを修正、追加、削除、順序変更などしたことに対応して、マッピングテーブル登録画面3上の表示を修正すると共に変換に必要な情報をマッピングテーブル7に登録するものである（図2参照）。

【0019】マッピングテーブル確認手段61は、マッピングテーブル7内の情報に従って、変換先のローカルフォーマットの実データを併せて確認画面4上に表示などするものである（図5参照）。

【0020】マッピングテーブル7は、標準フォーマット1とローカルフォーマット2との間で相互にデータを変換するための情報を登録するものである。フォーマット変換処理手段8は、標準フォーマット1とローカルフォーマット2との間で、マッピングテーブル7を参照して相互にデータをフォーマット変換するものである。

【0021】標準フォーマットファイル9は、ローカルフォーマットファイル12内のデータを標準フォーマットに変換して格納するものである。リスト出力10は、標準フォーマットファイル9内の標準フォーマットのデータのリストを出力したものである。

【0022】ダンプリスト11は、標準フォーマットのデータをダンプ形式（16進）でプリント出力して目視できるようにしたリストである。ローカルフォーマットファイル12は、標準フォーマットファイル9内のデータをローカルフォーマットに変換して格納するものである。

【0023】リスト出力13は、ローカルフォーマットファイル12内のローカルフォーマットのデータのリストを出力したものである。ダンプリスト14は、ローカルフォーマットのデータをダンプ形式（16進）でプリント出力して目視できるようにしたリストである。このローカルフォーマットのダンプリスト14と、標準フォーマットのダンプリスト11とを目視し、両者の一致を検証することを従来は行い、間違っていたときにマッピン

50

5

グテーブル7を手修正していた。本発明では、確認画面4上で後述する図7に示すように変換後の項目、属性および変換先の実データを併せて表示して確認しているため、従来のこのダンプリスト11とダンプリスト14とを目視して一致することを検証する必要性がなくなった。

【0024】次に、図2のフローチャートに示す順序に従い、図1のマッピングテーブル7に登録するときの動作を詳細に説明する。図2において、S1は、標準フォーマット1を作成する。

【0025】S2は、ローカルフォーマットを作成する。S3は、標準フォーマットに従ったローカルフォーマットのマッピングテーブル登録画面3を表示する。これは、例えば後述する図4の(a)のマッピングテーブル登録画面3上に示すように、標準フォーマットのレコードを取り出してタグ、項目名、属性などに対応づけて図示の下記のように表示する。

【0026】

表示順番	タグNo	項目名	属性
0010	001	データ作成日	X(8)
0020	002	発注日	X(10)
0030	003	注文番号	X(15)

S4は、項目名が一致か判別する。これは、マッピングテーブル登録画面3上に表示した項目名が変換しようとするローカルフォーマット2の項目名と一致か判別する。YESの場合には、一致したので、S6に進む。一方、NOの場合には、一致しなかったので、S5でローカルフォーマット2の項目名に修正する。例えば図4の(a)の①の標準フォーマットの項目名“注文数量”を、図4の(b)の①'のローカルフォーマットの項目名“数量”に利用者が画面上で修正する。これにより、マッピングテーブル7には、標準フォーマットのタグ“007”の項目名“注文数量”がローカルフォーマットの項目名“数量”に変更するという情報が登録されることとなる。

【0027】S6は、属性、桁が一致か判別する。これは、S4の項目名の場合と同様に、マッピングテーブル登録画面3上に表示した属性、桁が変換しようとするローカルフォーマット2の属性、桁と一致か判別する。YESの場合には、一致したので、S8に進む。一方、NOの場合には、一致しなかったので、S7でローカルフォーマット2の属性、桁に修正する。例えば図4の

(a)の②の標準フォーマットの属性“X(8)”(英数字で8桁)を、図4の(b)の②'に示す属性“9(6)”に利用者が画面上で修正する。これにより、マッピングテーブル7は、標準フォーマットのタグ“001”の属性“X(8)”がローカルフォーマットの属性“9(6)”に変更するという情報が登録されることとなる。

【0028】S8は、ローカルフォーマット側のみある

6

項目か判別する。YESの場合には、S9でマッピングテーブル登録画面3上の標準フォーマットの項目に追加する。例えば図4の(b)の③に示すように、利用者がマッピングテーブル登録画面3で項目追加する。一方、NOの場合には、S10に進む。

【0029】S10は、ローカルフォーマット側がない項目か判別する。YESの場合には、S11で項目を削除する。例えば図4の(b)の④に示すように、項目削除する。一方、NOの場合には、S12に進む。

【0030】S12は、項目順序が一致か判別する。YESの場合には、終了する。一方、NOの場合には、S13で項目順序を変更する。例えば図4の(b)の⑤に示すように、利用者がマッピングテーブル登録画面3で項目の順序を変更する。

【0031】以上によって、標準フォーマットをマッピングテーブル登録画面3上に表示し、利用者がこの表示された項目名、属性、桁数、順序が変換しようとするローカルフォーマットと異なる場合に、修正、削除、追加、順序変更を行うと共に、その変更の内容をマッピングテーブル7に登録する。これらにより、マッピングテーブル登録画面3上で変換しようとするローカルフォーマットと異なる部分のみ利用者が修正などするのみで、自動的にマッピングテーブル7を作成することができた。

【0032】図3は、本発明のフォーマット例を示す。図3の(a)は、標準フォーマット一覧表を示す。これは、図1の標準フォーマット1の一覧を図示の下記のように表示したものである。

【0033】

表示No	タグNo	項目名	属性
1	001	データ作成日	X(8)
2	002	発注日	X(10)
3	003	注文番号	X(15)

図3の(b)は、ローカルフォーマット一覧表を示す。これは、図1のローカルフォーマットの一覧を図示の下記のように表示したものである。

【0034】

表示No	項目名	属性	項目桁位置
1	データ作成日	9(6)	1
2	発注日	X(10)	7
3	注文番号	X(15)	17

ここでは、表示No“1”の属性“9(6)”(数字で6桁)が、標準フォーマットの属性“X(8)”(英数字で8桁)と異なっているので、既述した図2のS7でマッピングテーブル登録画面3上で修正して一致させることとなる。

【0035】図4は、本発明のマッピングテーブル登録画面例を示す。図4の(a)は、初期のマッピングテーブル登録画面例を示す。これは、図3の(a)の標準フォーマットをもとにマッピングテーブル登録画面3上に

7

表示した初期のものである。

【0036】図4の(b)は、修正後のマッピングテーブル登録画面例を示す。これは、図4の(a)の標準フォーマットのままでマッピングテーブル登録画面3上に表示した初期の状態から、図3の(b)のローカルフォーマットと異なる部分を利用者が当該マッピングテーブル登録画面3上で変更、追加、削除、順序変更などして正しくした後を示す。ここでは、右側の欄外に記載したように、それぞれ変更、追加、削除、項目順序変更を行って、ローカルフォーマットに一致させたものである。尚、点線の矢印を用いて初期から修正後の関連を示す。

【0037】①'は、初期(標準フォーマット)の項目名“注目数量”をローカルフォーマットの項目名“数量”に修正したものである。

②'は、初期(標準フォーマット)の属性“X(8)”(英数字で8桁)をローカルフォーマットの属性“9(6)”(数字で6桁)に修正したものである。

【0038】③は、レコードを1つ追加したものである。

④は、初期のタグ“004”のレコードを削除したものである。

⑤は、点線の矢印で示したように、項目の順序を変更したものである。

【0039】⑥は、点線の矢印で示したように、項目名を“注文金額”から“金額”に変更したものである。以上のように、標準フォーマットを初期にマッピングテーブル登録画面3上に図4の(a)に示すように表示し、これを変換しようとするローカルフォーマットに一致するように、項目名の変更、属性(桁数)の変更、項目の追加、項目の削除などを行って図4の(b)のようにマッピングテーブル登録画面3にしてマッピングテーブル7を作成することが可能となる。

【0040】次に、図5のフローチャートに示す順序に従い、フォーマット変換したときの検証について詳細に説明する。図5において、S21は、マッピングテーブル7から1レコードを取り出す。

【0041】S22は、ローカルフォーマットファイルの対応する項目の実データを取り出す。S23は、マッピングテーブルのデータと実データを合わせて表示する。これらS21からS23は、例えば図4の(b)の修正後のマッピングテーブル登録画面3上のレコードがマッピングテーブル7に登録されているので、この登録されている1レコードを取り出し、図6のローカルフォーマットから対応する項目のレコードの実データを取り出し、両者を合わせて例えば図7の(a)に示すように表示する(商品コードのレコードについて表示する)。

【0042】S24は、終わりが判別する。YESの場合には、S25に進む。NOの場合には、次のレコードについて繰り返す。以上によって、マッピングテーブル7の変換するための情報およびローカルフォーマットの

8

実データをもとに例えば図7の(a)に示す確認画面4上に項目名、属性など、および実データが併せて表示されることとなる。

【0043】S25は、利用者が確認画面4上に表示された項目名、属性および実データを目視する。S26は、S25の目視して検証した結果がOKか否かを判別する。例えば図7の(a)のマッピングテーブル登録画面3の場合には、桁数ミスにより以降の項目位置ズレが発生していると判明したので、NOとなり、S27でマッピングテーブル7を修正する(図4の(b)のマッピングテーブル登録画面3上で間違っている部分を修正し、結果としてマッピングテーブル7を修正する)。一方、目視して検証した結果、正しければ、YESとなり、終了する(END)。

【0044】以上によって、マッピングテーブル登録画面3を用いてマッピングテーブル7に登録中、あるいは登録後に、図7の(a)に示す、変換先のローカルフォーマットで項目、属性および実データも合わせて表示した確認画面4上で利用者が目視で検証を行い、間違っている部分をマッピングテーブル登録画面3上で修正、追加、削除、順序変更などして正しくすることにより、自動的にマッピングテーブル7が修正されることとなる。

(マッピングテーブル7には、変換元の標準フォーマットから変換先のローカルフォーマットに変換するときに必要な情報(項目や属性などの変更、追加、削除、順序変更など)が修正されることとなる)。

【0045】次に、図7を用いて図5のS27のマッピングテーブルの修正について詳細に説明する。図7は、本発明の確認画面例を示す。

【0046】図7の(a)は、桁数ミス[X(10)→X(8)]により、以降の項目位置ズレが発生した例を示す。この桁数ミスを確認画面4で利用者が検証することにより、一目で分かり、矢印で示した位置に“△△”が移動すべきことが容易に判明し、商品コードの間違った属性“X(8)”を正しい属性“X(10)”にマッピングテーブル7の作成段階でマッピングテーブル登録画面3上から容易に修正できる。

【0047】図7の(b)は、項目順序ミス[数量と単位の項目順序ミス]により、以降の項目位置ズレが発生した例を示す。この項目順序ミスを確認画面3で利用者が検証することにより、一目で分かり、矢印で示したように項目を入れ替えて正しい項目順序に、マッピングテーブル7の作成段階でマッピングテーブル登録画面3上から容易に修正できる。

【0048】図7の(c)は、項目抜けミス[単位]により、以降の項目位置ズレが発生した例を示す。この項目抜けミスを確認画面3で利用者が検証することにより、一目で分かり、矢印で示したように項目“単位”を挿入して正しい項目順序に、マッピングテーブル7の作成段階でマッピングテーブル登録画面3上から容易に修

正できる。

【0049】図8は、本発明の順変換フローチャートを示す。これは、ローカルフォーマットから標準フォーマットに変換したデータを送信する場合のものである。図8において、S31は、ローカルフォーマットファイルからデータを1レコード取り出す。

【0050】S32は、マッピングテーブル7を参照し、タグNoを取り出し、タグNoをもとに標準フォーマットの属性、桁に変換する。S33は、標準ファイルに格納する。

【0051】S34は、終わりが判別する。YESの場合には、ローカルフォーマットファイルの全てのレコードを、マッピングテーブル7を参照して標準フォーマットに変換して標準ファイルに格納を終了したので、S35で送信する。一方、NOの場合には、次のレコードについてS31以降を繰り返す。

【0052】以上によって、ローカルフォーマットのデータを、マッピングテーブル7を参照して標準フォーマットのデータに変換した後、送信する。図9は、本発明の逆変換フローチャートを示す。これは、受信した標準フォーマットのデータをローカルフォーマットに変換する場合のものである。

【0053】図9において、S41は、図8のS35で送信された、標準フォーマットのデータを受信し、標準フォーマットファイルに格納する。S42は、標準フォーマットファイルからデータを1レコード取り出す。

【0054】S43は、標準フォーマットファイルのタグNoを取り出し、タグNoをもとにマッピングテーブル7の属性、桁に変換する。S44は、ローカルファイルに格納する。

【0055】S34は、終わりが判別する。YESの場合には、標準フォーマットファイルの全てのレコードを、マッピングテーブル7を参照してローカルフォーマットに変換してローカルファイルに格納を終了したので、終わる。一方、NOの場合には、次のレコードについてS42以降を繰り返す。

【0056】以上によって、受信した標準フォーマットのデータを、マッピングテーブル7を参照してローカルフォーマットのデータに変換する。

【0057】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、変換前のフォーマットに従って項目や属性および必要に応じて実データをマッピングテーブル登録画面3上に表示し、変換後のフォーマットの項目や属性などに修正、追加、削除、順序変更しマッピングテーブル7に登録す

ると共にマッピングテーブル7の情報に従って項目、属性および変換先の実データを併せて確認画面4上に表示して検証し、間違っているときにマッピングテーブル登録画面3上から修正してマッピングテーブル7を修正する構成を採用しているため、マッピングテーブル7の作成時に変換後のフォーマットの検証が同時にでき、フォーマット変換用のマッピングテーブル7の作成/検証を短時間かつ簡単に行うことができる。これらにより、フォーマットを変換するシステムの導入作業の時間短縮を図ることができ、特に従来のダンプ形式で目視して検証を行い、間違っていたときにマッピングテーブル7を手修正する戻り作業が必要となっていたものを、本発明ではマッピングテーブル登録画面3上でマッピングテーブル7を作成中あるいは作成直後に確認画面4上にマッピングテーブル7の情報に従って変換後の実データを併せて表示し検証を行って間違っているときに即座にマッピングテーブル登録画面3上から変更、追加、削除、順序変更などを行ってマッピングテーブル7を修正できる大きな特徴がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の1実施例構成図である。

【図2】本発明のマッピングテーブル登録フローチャートである。

【図3】本発明のフォーマット例である。

【図4】本発明のマッピングテーブル登録画面例である。

【図5】本発明のマッピングテーブル設定確認フローチャートである。

【図6】本発明のローカルフォーマット例である。

【図7】本発明の確認画面例である。

【図8】本発明の順変換フローチャートである。

【図9】本発明の逆変換フローチャートである。

【図10】従来技術の説明図である。

【符号の説明】

1：標準フォーマット

2：ローカルフォーマット

3：マッピングテーブル登録画面

4：確認画面

5、12：ローカルフォーマットファイル

6：マッピングテーブル作成手段

61：マッピングテーブル確認手段

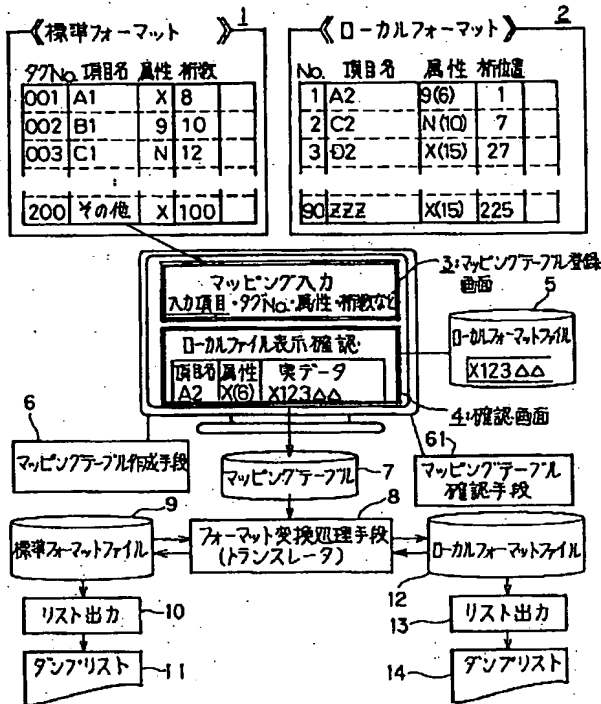
7：マッピングテーブル

8：フォーマット変換処理手段

9：標準フォーマットファイル

【図1】

本発明の1実施例構成図



【図3】

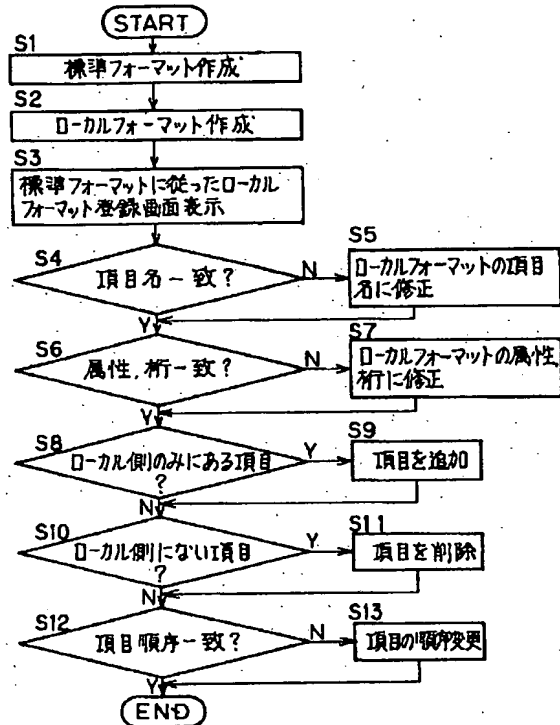
本発明のフォーマット例

No.	タグ	項目名	属性
1	001	データ作成日	X(8)
2	002	発注日	X(10)
3	003	注文番号	X(15)
4	004	商品名	X(25)
5	005	商品コード	X(10)
6	006	単位	X(3)
7	007	注文数量	9(9)V(3)
8	008	注文金額	9(10)
9	009	受け渡し場所	X(8)

No.	項目名	属性	項目 桁位置
1	データ作成日	9(6)	1
2	発注日	X(10)	7
3	注文番号	X(15)	17
4	注文管理番号	X(15)	32
5	商品コード	X(10)	47
6	受け渡し場所	X(8)	57
7	単位	X(3)	65
8	数量	9(9)V(3)	68
9	金額	9(10)	80

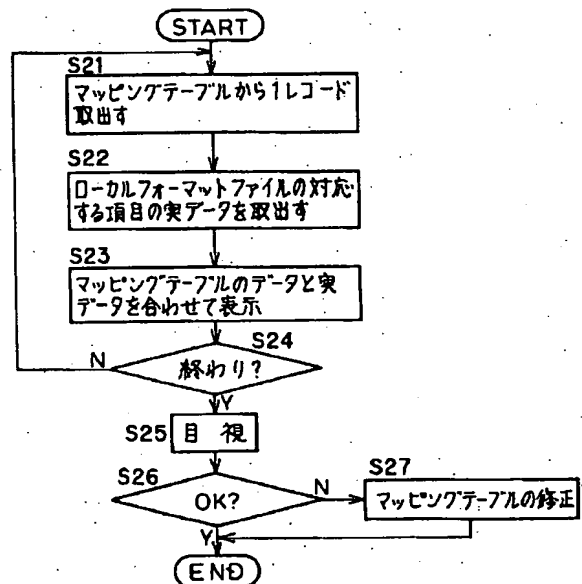
【図2】

本発明のマッピングテーブル登録フローチャート



【図5】

本発明のマッピングテーブル設定確認フローチャート



【図4】

(a) 初期				(b) 修正後			
表示 順番	ﾀﾞﾀﾞ	項目名	属性	表示 順番	ﾀﾞﾀﾞ	項目名	属性
0010	001	ﾃﾞｰﾀ作成日	X(8)	0010	001	ﾃﾞｰﾀ作成日	9(6)
0020	002	発注日	X(10)	0020	002	発注日	X(10)
0030	003	注文番号	X(15)	0030	003	注文番号	X(15)
0040	004	商品名	X(25)	0035	000	受注管理番号	X(15)
0050	005	商品コード	X(10)	0050	005	商品コード	X(10)
0060	006	単位	X(3)	0055	009	受け渡し場所	X(8)
0070	007	注文数量①	9(9)X(3)	0060	006	単位	X(3)
0080	008	注文金額	9(10)	0070	007	数量①	9(9)X(3)
0090	009	受け渡し場所	X(8)	0080	008	金額	9(10)

② 桁数変更

③ 項目追加

④ ﾀﾞﾀﾞ004削除

⑤ 項目順序変更

⑥ 項目名変更

【図6】

本発明のローカルフォーマット例

ﾃﾞｰﾀ作成日	商品コード	数量	単位	金額
9(6)	X(10)	9(5)	X	9(10)
940501	ABC123△△△△	00015	コ	0000020000

【図7】

本発明の確認画面例

				4
項目名	属性	実ﾃﾞｰﾀ		
(a) ｳﾞｰﾀ作成日	9(6)	940501		
商品コード	X(10)	ABC123△△△△		
数量	9(5)	△△000		
			4	
(b) ｳﾞｰﾀ作成日	9(6)	940501		
商品コード	X(10)	ABC123△△△△		
単位	X(1)	0		
数量	9(5)	0015コ		
			4	
(c) ｳﾞｰﾀ作成日	9(6)	940501		
商品コード	X(10)	ABC123△△△△		
数量	9(5)	00015		
金額	9(10)	コ0000020000		

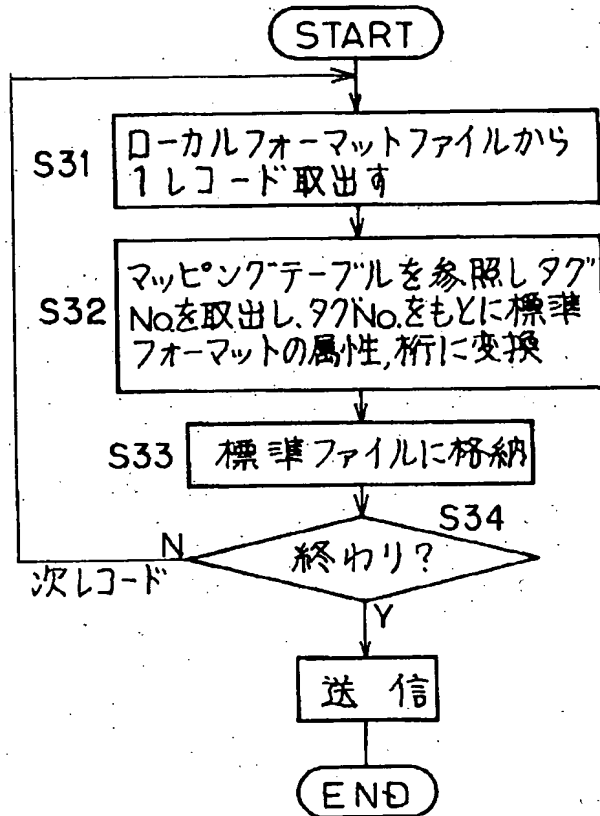
④ 桁数ミスにより(X(10)→X(8))以降の項目位置ズレ

④ 項目順序ミスにより数量→単位)以降の項目位置ズレ

④ 項目抜けミスにより(単位)以降の項目位置ズレ

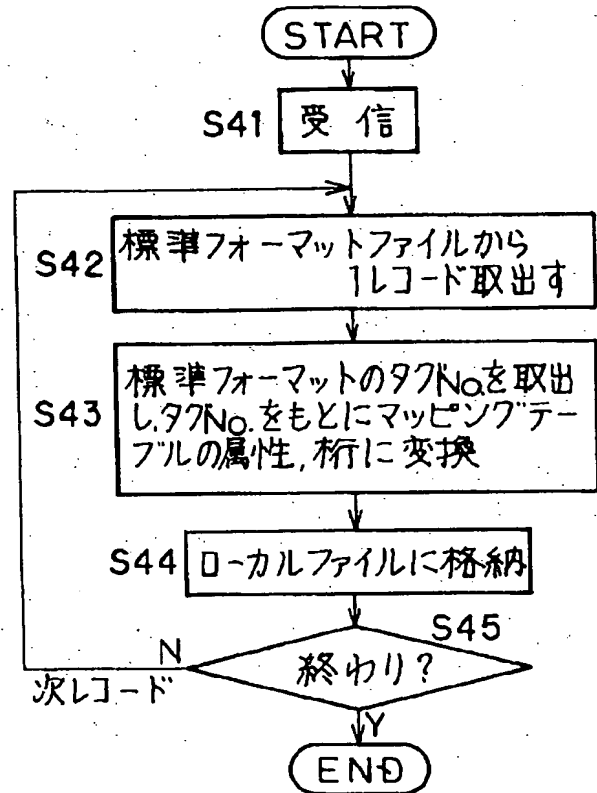
【図8】

本発明の順変換フローチャート



【図9】

本発明の逆変換フローチャート



【図 10】

従来技術の説明図

